

後 記

1998年2月初旬のある朝——東京芝のホテルの喫茶室で、小松昭夫氏を4人の有志が囲んでいました。小松氏のほかは、みな一様に疲れ果てた顔をしていました。前日からホテルに泊まり込み、延々6時間に及んで議論を重ねていたからです。今、我々はどんな危機に直面しているのか。これがテーマでした。

民族・宗教・地域・国家間の武力紛争、テロリズム、地球温暖化、オゾン層破壊、森林破壊、酸性雨、砂漠化、環境ホルモンなどの環境問題、人口爆発と食糧危機、資源・エネルギー危機、通貨・金融危機と世界恐慌、日韓・日中の歴史問題、朝鮮半島情勢、財政破綻、不良債権、貸し渋りと企業倒産、政治家・官僚の汚職の蔓延、司法の腐敗、少子・高齢化問題、地方都市と農村の荒廃、子

供の凶悪犯罪等々……私がノートに書きとめた世界の危機、アジアの危機、日本の危機は100項目に及ぼうとしていました。自分たちがいかに閉塞の時代に生きているかを改めて痛感し、翌朝は絶望的な気分には陥っていました。

ひとり元気を保っていた小松氏が言いました。「ゆうべ議論した問題を解決する糸口を見出すプランをまとめよう」。みな一瞬、あっけにとられました。膨大な問題点をどう整理し、どんな対策を考え出そうというのか。一同のそんな胸中を察したのか、「大丈夫、2時間もあればまとまる」と小松氏は言いました。「私が10年かけて構想を練ってきたプロジェクトが4つある。各項目に番号をつけて、どのプロジェクトがその解決策になり得るか、割り振ってみよう」。みなは呆然としたまま、小松氏の提案にしたがって作業を始めました。すると、あ

らゆる危機が4つのプロジェクトにすっぽりと納まっ
てしまったのです。本当に2時間もかかりませんでした。

「じゃあ、今度は企画書にまとめる相談をしよう。まず
……」言いかけた小松氏を、私はさえぎりました。「わ
かりました。よくわかりました。これから先は、私にや
らせてください。私の役割がなくなります」。

「太陽の國出雲——地球ユートピアモデル事業——」
構想を文章にまとめる作業が、こうして始まりました。

(人間自然科学研究所 交易場修)

発行人 小松昭夫

発行所 人間自然科学研究所

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町 735-188 松江

湖南テクノパーク 小松電機産業株式会社 内

TEL 0852-32-3636 FAX 0852-32-3620

<http://www.hns.gr.jp>